



校長のひとり言

通信制高校

■通信制高校はなぜ増えたのか？

昨年の秋、ある団体が大規模なアンケートを実施した。その結果で様々な実態が浮かび上がったと報告している。生徒の約6割は不登校を経験し、全体の4割は他の学校から転編入している。宍道高校も同様の傾向である。

通信制教育は学校教育法に基づき、本来、全日制や定時制に通学できない若者に働きながら高校教育の機会を提供するために設置された。全国の通信制高校は、近年急速に増加傾向にあり、特に私立高校の増加が顕著である(私立高校：H16年、82校⇒H26年、154校)。その理由は、平成元年以降、不登校やひきこもり、集団で授業が受けにくい生徒たちが増えたなど、その生徒たちの受け皿となったり、居場所として受け入れられることによるものと報告している。さらに、生徒たちの個性やニーズが多様化して、それに柔軟に対応してくれる学校として若者たちの支持を受けることになった。

■生徒たちが通信制高校を選択した理由

近年の傾向としては、「自分のやりたいことに(仕事、スポーツ、芸能、声優、IT、ペット等)時間を有効に使いたい」など積極的な理由から選ぶ生徒が多い。また、「登校スタイルが合っている」、「無理に集団に参加しなくてもいい」なども多い。自らが通信制教育を選択した理由を振り返り、日々の活動のエネルギーとしてほしい。

■宍道高校の非活動生が心配

平成27年度がスタートしたが、受講手続きを希望しない非活動生が活動生の倍近くいる。理由は様々あるが、校長としては心配である。意義意図をもって、人生設計が立てられてのことであればいいが、自宅にこもったままであるとか、所在がわからず音信不通の生徒については、一步を踏み出すきっかけとなったり、学校の諸手続きを完結させるためにも学校に連絡してほしい。待っています。

■通信制教育70周年記念

平成29年には、日本の通信制教育が始まって70年を迎える。縁あってか、その年に全国高等学校通信制教育研究会総会並びに研究協議会(70周年記念島根大会)を松江市で開催することが決定している。この大会は、多様化する生徒の実情を踏まえ、教育の質保障に向けた新たな取組を積極的に推進していくことが求められている中で、通信制教育の在り方や通信制の特性を生かした教育について研究協議し、確かな学力を育む教育を目指すとともに、社会に自ら適応できる生徒を育てることを目的として研究協議される。宍道高校が事務局校であるため、通信制を担当する先生を中心に準備を進めている。